



運営委員会 会長
小野 寺 敬 作

あけましておめでとうございます。謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

J・Aいわてグループの会員J・A・農家組合員役職員ならびにご家族の皆さま方におかれましては、それぞれお揃いのお正月をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の増加が断続的に続いたものの、政府による大幅な行動制限等がなかったことで、催事イベント等が徐々に再開され、全国的な経済活動回復の兆しが見える年となりました。一方で、世界的な金融政策のあり方を受け、円安による円高の進行や、ロシアによるウクライナ侵略に起因する国内消費者物価の上昇などが、国民生活全体に暗い影を落とした1年でもありました。

折しも本会は、長期的な全体戦略にもとづいて策定した今次中期計画の達成に向けて、最重要課題である持続可能な生産基盤維持のための様々な対策や販売力強化に取り組む中、農家組合員の皆様の営農継続をサポートしてまいりましたが、国内の農業・J・Aを取り巻く情勢を見ますと、飼料・資材・燃料などの価格高騰は、日本の食料安全保障上の課題をさらに顕在化させました。生産者の営農継続に重大な影響をもたらしているこれらの課題に対しては、あらゆる観点から必要となる対策を実施する必要があります。また、足元をみますと、農業従事者の減少や高齢化、担い手不足等による廃業や離業による生産基盤の縮小が依然として続くなか、超低金利等による信用事業収益

の減少などから、J・Aの営農経済事業の速やかな収支改善への期待が「層高まっています」。

また、農林水産業の持続的な発展をはかるために、環境負荷低減と生産力向上の両立をめざす「みどり戦略食料システム法」が昨年7月に施行されました。

このように国内農業やJ・Aを取り巻く環境が大きな転換期にある中、今次中期計画の2年目となる本年は、引き続き、「第46回J・A岩手県大会」の決議を踏まえ、「持続可能な食糧・農業基盤の確立」の実現に向けて、マーケティングにもとづく生産・販売事業の強化や、農家手取り最大化に向けたトータルコストの引き下げなどに取り組んでまいります。また、持続可能な環境調和型農業の実現にむけては、J・Aいわてグループが一体となった「みどり戦略ビジョン」を策定して、着実に取り組みを実践してまいりますとともに、J・A営農指導への支援強化をはかりながら、J・Aの経済基盤強化についても各連合会と協力して、引き続き支援を拡充してまいります。

これらの取り組みを通じて、「純情産地いわて」が消費者からより一層支持され、将来にわたって県内の農家組合員が安心して営農活動が継続できる生産基盤を確立できるよう、引き続き職員一丸となって取り組んでまいります。

新しい年を迎え、本年も皆様方の変わりぬくご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、益々のご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



県本部長
高橋 司

新年明けましておめでとうございます。令和5年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する行動制限等が大幅に緩和されたことで移動をとらなくなった人の流れが回復し、本会も各種展示会や販促関連のイベントを開催できたなど、アフターコロナが垣間見えた1年となりました。一方で、ロシア・ウクライナ情勢の影響による世界的な穀物市況の変動やエネルギー価格の上昇、生産資材や飼料の価格高騰は、営農継続や生産基盤維持における深刻な課題となり、会員J・A、農家組合員の皆様におかれましても、多大なるご苦労があったことと思います。

このような情勢の中、本会においては今次中期計画の1年目として、①純情産地いわての持続可能な生産基盤確立、②実需や多様なマーケティングに対応する販売体制の拡充、③生産者手取り最大化に向けたトータルコスト低減などの継続的な取り組みを実践してまいりました。

2年目となる本年は、第46回J・A岩手県大会で決議された「持続可能な食糧・農業基盤の確立」のため、喫緊の課題である生産資材や飼料の安定確保と価格高騰対策を実施するとともに、5年後、10年後を見据えて策定した中期計画の重点施策を中心に着実な取り組みをすすめてまいります。

①純情産地いわての持続可能な生産基盤確

立では、水田営農の継続に向けた「いわて水田活用ビジョン」の実践・家族経営での集約的園芸品目生産の実証と導入促進、和牛生産基盤の維持拡大に向けた県内「貫生産体系システム」の推進等に取り組んでまいります。②実需や多様なマーケティングに対応する販売体制の拡充では、主食用米の取引先需要動向と産地作付動向の積極的マッチングの実施、実需者ニーズに対応した園芸直販事業の拡大、「いわて牛」のブランド力強化と販路拡大等に取り組んでまいります。③生産者手取り最大化に向けては、農家手取り最大化プロジェクトの成果の水平展開、B・B肥料や大型規格農業・共同購入農機の供給拡大による生産資材コスト削減に取り組んでまいります。

くわえて生産力向上と持続可能な生産基盤確立の観点から「みどりの食糧システム戦略」への取り組みもすすめてまいります。

また、J・A経済事業強化への支援ですが、J・A事業分量の拡大に向けた未利用・低利用農家へのJ・Aとの同行推進強化や、J・Aの事務効率化対策にも速やかに取り組んでまいります。

本会は、岩手県の農業の発展と農家組合員の所得増大のため、J・A組合員の皆様の声と真摯に向き合いながら、皆様のご期待に応える「なくてはならない全農」であり続けてまいります。

本年も引き続き皆様方より、層のご支援ご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



いわて純情むすめ

活動報告



「いわて純情りんごコンテスト」展示会・販売会

令和4年11月26日(日)

11月26日(日)にイオンモール盛岡で開催された「いわて純情りんごコンテスト」展示会・販売会に高橋怜那さんが参加しました。

店頭には、コンテストに出品された「シナノゴールド」「サンふじ」「ぐんま名月」「奥州ロマン」「青林」の5種が並びました。高橋さんは、店頭に立ち岩手県産りんごの魅力をPRしました。



「牛乳のチカラを、あなたに。」キャンペーン

令和4年12月11日(日)

12月11日(日)にイオンモール盛岡で開催された「牛乳のチカラを、あなたに」キャンペーンでの牛乳の無償配布に松川奈愛さんが参加しました。

牛乳の消費喚起や酪農の理解醸成を目的として行われ、来場者1000人に200mlの牛乳が無償配布されました。



2022いわて純情むすめ
Instagram

純情産地いわての魅力を発信!
いわて純情むすめの活動記録、「純情産地いわて」の食やグルメ情報をお届けします



岩手県立一関工業高等学校バスケットボール部 令和4年12月8日(水)



「SoftBankウィンターカップ2022 令和4年度 第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会」に岩手県代表として出場する岩手県立一関工業高等学校バスケットボール部にJAいわて平泉からJAいわて平泉産「ひとめぼれ」30kg、JAいわて平泉「りんごジュース」2ケース、JA全農いわてから「いわて純情豚」1頭分が贈呈されました。

岩手県立盛岡商業高等学校サッカー部 令和4年12月9日(金)



「第101回全国高等学校サッカー選手権大会」に岩手県代表として出場する岩手県立盛岡商業高等学校サッカー部にJAいわて中央からJAいわて中央産「ひとめぼれ」60kg、JA全農いわてから「いわて純情豚」1頭分が贈呈されました。

一関学院高等学校陸上部 令和4年12月14日(水)



「令和4年度 第73回全国高等学校駅伝競走大会」に岩手県代表として出場する一関学院高等学校陸上部にJAいわて平泉からJAいわて平泉産「ひとめぼれ」30kg、JAいわて平泉「りんごジュース」2ケース、JA全農いわてから「いわて純情豚」1頭分が贈呈されました。

一関修紅高等学校バレーボール部 令和4年12月15日(木)



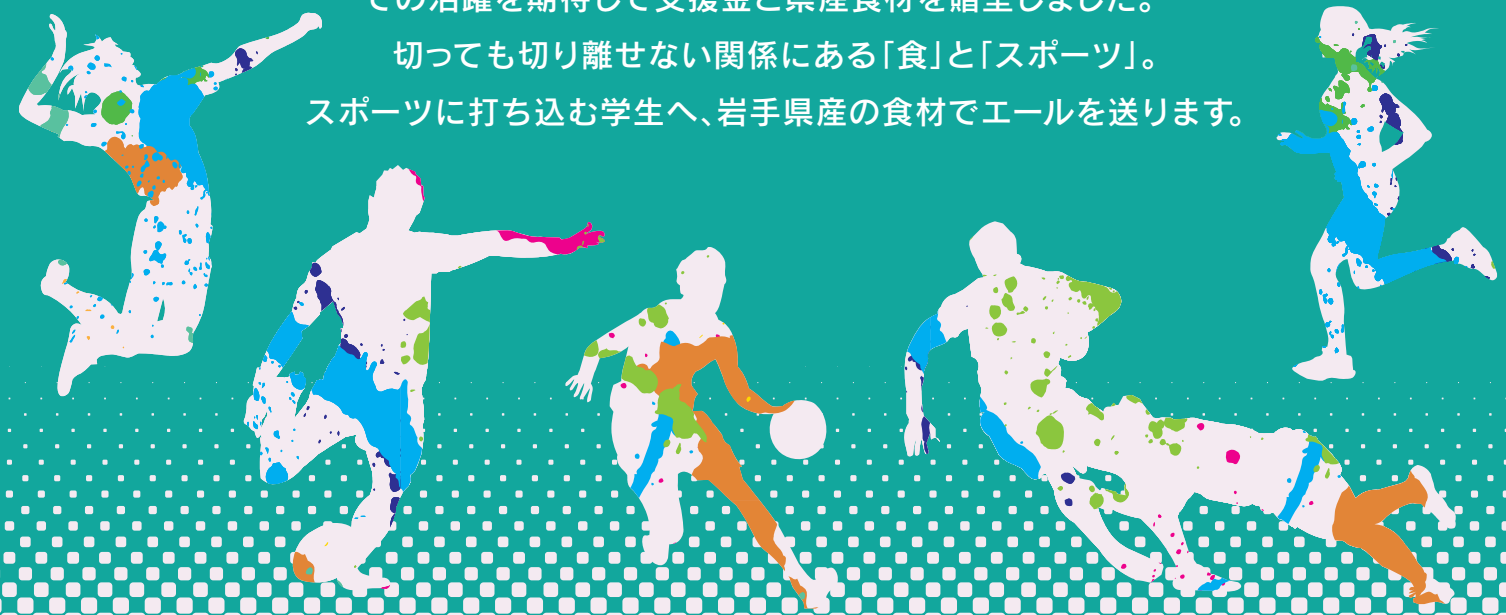
「令和4年度 第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会」に岩手県代表として出場する一関修紅高等学校バレーボール部にJAいわて平泉からJAいわて平泉産「ひとめぼれ」30kg、JAいわて平泉「りんごジュース」2ケース、JA全農いわてから「いわて純情豚」1頭分が贈呈されました。



JA全農いわては、スポーツを頑張る全ての人を応援しています。

JAいわて中央、JAいわて花巻、JAいわて平泉と合同で、岩手県の高校サッカー、ラグビー、バスケットボール、バレーボール、駅伝の全国大会出場校に対して全国大会での活躍を期待して支援金と県産食材を贈呈しました。

切っても切り離せない関係にある「食」と「スポーツ」。
スポーツに打ち込む学生へ、岩手県産の食材でエールを送ります。



岩手県立黒沢尻北高等学校ラグビー部 令和4年12月7日(水)



「第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会」に東北ブロック代表として出場する岩手県立黒沢尻北高等学校ラグビー部にJAいわて花巻から北上産「ひとめぼれ」120kg、JA全農いわてから「いわて純情豚」1頭分が贈呈されました。

◆ つながろう、若手酪農家

令和4年11月22日(火)

「次世代酪農家の集い2022」開催

11月22日(火)に盛岡市の岩手教育会館で、「次世代酪農家の集い2022」が開催されました。この集会は、およそ就農5年以内の20代～30代の酪農家を対象に、酪農家同士の交流と生産技術の研究を図る目的で実施されています。3年ぶり11回目となる今回は、酪農家のほか、県内のJA職員、酪農関係者ら約35名が参加しました。

参加者はグループに分かれ、それぞれの農場の課題点や働き方について意見を交換しました。3年前に岩泉町で新規就農した山屋裕太さんは「自分よりも若い年齢の人たちが親の跡を継ぐために参加していて刺激を受けた。自分ももっと頑張っていきたい」と決意を話しました。

近年、高齢化や後継者不足、飼料高騰による経営難などを理由とした酪農家の離農が全国的な問題となっています。事務局を務めた本会畜産酪農部生産指導課の坪早央梨さんは「酪農情勢は厳しく、コロナ禍も相まって酪農家同士の交流も少ないためモチベーションを失いがちになる。この会が、県内の若手酪農家たちが成長し、互いに助け合える関係を築ききっかけになれば」と話しました。



互いの農場を比較、今後の課題や目標について発表している様子



グループで協力し発表内容をまとめました

◆ 次の5年を見すえて

令和4年11月25日(金)

鹿児島全共の結果を報告

11月25日(金)ホテルメトロポリタン盛岡で、「第12回全国和牛能力共進会(全共)」の報告会が行われました。達増拓也岩手県知事をはじめ、出品者、共進会関係者ら約90名が参加し、大会までの出品者の苦労を労うとともに、5年後に開催される北海道全共へ向けて気合を入れる機会となりました。

5年おきに開催となる全共は、今年10月6日から10日までの5日間、鹿児島県で開催されました。岩手県チームは全ての区(9区分)に出品し、うち7つの区で優等賞を受賞しました。なかでも第1区の若雄の部と特別区は、前大会を上回る優等賞3席という成績を収めました。

報告会で達増知事は「これまでチーム岩手として生産者、関係者が一丸となって鹿児島大会に向け全力で取り組んだ成果が今回の成績につながった」と出品者たちを讃えました。また第12回全国和牛能力共進会岩手県協賛会の小野寺敬作会長より、全国で堂々と戦い抜いた出品者らに感謝状が贈呈されました。

JA全農いわてでは、各地域の農協と連携しながら、生産者がより質の高い和牛を飼育できるよう、情報提供などを通じバックアップしていきます。



岩手代表として出場した出品者全員に感謝状が送られました



岩淵孝幸団長がチーム岩手の代表として挨拶を行いました

◆ 熱戦!いわて牛カップ

令和4年度12月4日(日)

JA全農いわて いわて牛カップS-1卓球グランプリ

12月4日(木)「第10回JA全農いわて いわて牛カップS-1卓球グランプリ」が岩手県の矢巾町民総合体育館で開催されました。県内各地から114名の小学生が参加し5・6年生男子の部、女子の部、4年生以下男子の部、女子の部の計4部門が個人戦で行われました。

特別協賛として本会は、いわて牛のロースすきやき用、ももバラミックス焼肉用などの入賞賞品、参加賞の「おおのミルク工房ゆめ牛乳」などを提供しました。畜産酪農部の大津信一次長は開会式で「入賞した子も、頑張ったけどできなかった子もぜひお家で県産のお肉を食べてほしい」と挨拶しました。

岩手県選抜に選ばれた選手は、令和5年3月24日(金)～26日(日)に鹿児島県で行われる全国大会へ出場します。



入賞者のみなさんおめでとうございます!

◆ 酪農ヘルパーの魅力発信

令和4年12月5日(月)

MCL盛岡ペットワールド専門学校で出前講座を実施

JA新しいわて、葛巻町酪農ヘルパー利用組合、JA全農いわては12月5日(月)、「酪農ヘルパー」という職業について広く知ってもらおうと、盛岡市のMCL盛岡ペットワールド専門学校で出前講座を行いました。

酪農ヘルパーは、酪農家が休みをとる際に搾乳や餌やりなどの作業を代行する職業で、ゆとりある酪農経営をサポートする重要な役割を担っています。岩手県内では約500戸の酪農ヘルパー利用農家に約70名の酪農ヘルパーが対応していますが、人材不足が課題となっています。

本会では、酪農ヘルパーのPRや研修会などを実施しており、専門学校等での出前講座もその取り組みのひとつで、MCL盛岡ペットワールド専門学校での出前講座は去年に続き2回目です。今回の講座は、1年生60名が受講しました。葛巻町で酪農ヘルパーとして活躍する木戸場真紀子さんも講師として登壇し、酪農ヘルパーになるきっかけや実際にどんな作業があるかなどを紹介しました。「安心して休んでもらうためには『この人に大切な牛を任せてもいい』という信頼関係が大事。大変だけどやりがいを感じる仕事」と魅力を語り「ぜひインターンシップに参加してみてほしい」と呼びかけました。

JA全農いわてでは、社会人および学生の酪農ヘルパーインターンシップ参加者を随時募集しています。



酪農ヘルパーとしての想いを語る木戸場さん

(2) 栽培管理システム XarvioFM (ザルビオフィールドマネージャー)

ザルビオフィールドマネージャー（以下、ザルビオ）は、全農と化学メーカーが協力して開発した栽培管理支援システムです。同システムは、気象情報、人工衛星からの画像等、様々な情報をAIによって解析することで、最適な栽培管理情報を利用者のスマートフォンなどに表示することができます。今年度、人工衛星からの画像解析で得られた前年の生育状況を基に適切な施肥を行う可変施肥の実証・実演を県内で初めて実施しました。可変施肥に使用するマップの選定方法等に課題が残りましたが、最終的には収量増や減肥に繋がる技術とできるよう、引き続き実証をしていく予定です。



生育マップから作成した散布マップ
(色の濃い箇所は施肥量を少なく設計)



可変施肥対応の散布機
(GPSナビキャスト)

(3) ドローン利用拡大（水稻追肥）

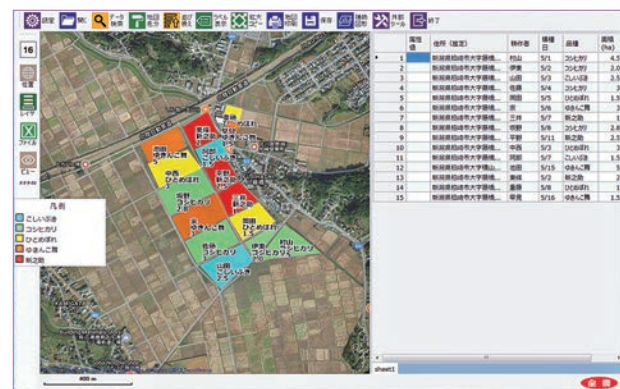
ドローンによる水稻追肥について、昨年より尿素をベースに新たに開発された高窒素肥料（窒素成分40%、他加里成分5%、くみあい肥料（株）製造）で実証してきました。今年はJA新いわて管内において1ha規模でその作業性を確認しました。また、近年の海洋における環境問題を背景に、プラスチックを使用する緩効性肥料に頼らない農業を推進するため、水稻肥料として定着している「基肥一回施肥、追肥を省略する一発肥料」から新たな「追肥体系」への移行に向けたドローン利用としても期待しているところです。



追肥作業にかかる労力・時間の削減にも期待

(4) 全農営農管理システム Z-GIS

Z-GISとは全農が開発した営農管理システムです。経営の大規模化により煩雑化した圃場管理作業をサポートし、圃場毎の作業内容（作業時間や施肥・防除履歴等）を記録、クラウドによる情報共有を実現しました。パソコンからはもちろん、スマホ等での利用も可能です。また、ザルビオとも連携ができ、幅広くデータを活用することができます。



Z-GISのPC画面

3. 営農情報発信の取組み

実証した新たな技術等は、研修会の開催や各地域の座談会等で提供していく予定です。また、令和2年度より運用している公式LINEアカウント「JA全農いわて営農情報」や、YouTubeチャンネル「【JA全農いわて公式】Let's TRY!! いわて営農チャンネル」でもより多くの生産者へ広く発信しています。



LINE
「JA全農いわて営農情報」



YouTube
「JA全農いわて公式」
Let's TRY!! いわて営農チャンネル



まえむきに
ひたむきに
純情産地
いわて

INTRODUCTION

営農支援部

営農技術課 スマート農業の取り組み

1. はじめに

営農技術課では、農家手取り最大化の実現を目指した取り組みや、農業ICTを活用した「スマート農業」の現場実装を促進させるための各種実証などを行っています。今回は、令和4年度に取り組んだ実証技術について紹介します。



2. スマート農業実証技術

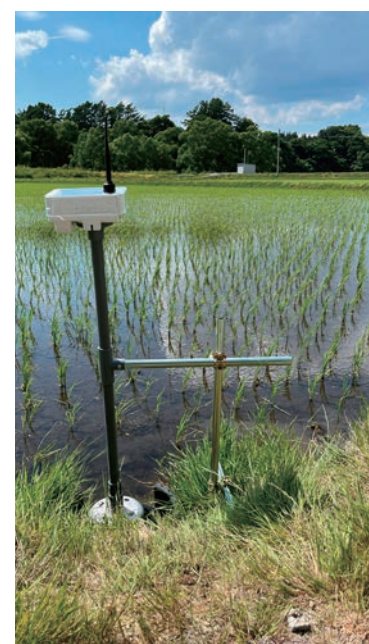
(1) farmo 水位センサー・自動給水機

① 水位センサーとは、連携したスマホアプリを通じてリアルタイムで圃場の水位を確認できる製品です。地割地番・移植期等の違いによる水位データの「見える化」と、今後の水管理に活かすため、farmo水位センサーを用いてデータの蓄積を図ります。また、遠く離れた圃場などの水見にかかる労力を削減することが目的となります。圃場の水持ち具合が把握できるため、除草剤の散布や次年度の作業計画作成等、幅広くデータを活用することができます。



▲スマホのアプリ画面。水位が一覧で確認できる
▲(株)farmo水位センサー

② 自動給水機とは、水位センサーと連動して水管理を行うことができる製品です。遠い圃場などの水管理にかかる労力を削減し、作業の効率化を図ります。また、適期の水管理による生育量の確保や品質向上に貢献します。今年度初実証した自動給水機はパイプライン用の自動給水機で、県内7か所で試験を行いました。製品化にあたっては課題も見つかりましたが、実証にご協力いただいた農家の期待も大きく、今後の改良に期待が持たれる結果となりました。来年度も引き続き実証試験を行っていきます。



(株)farmoパイプライン用自動給水機
水位センサーとの連携が必須



スマホのアプリ画面
手動/自動どちらでも操作できる



資材推進・物流課
くどう そうた
工藤 奏太さん

◎趣味・特技

趣味:釣り 特技:野球

◎現在の担当業務

胆江地区の肥料・農薬推進を主な業務として行っています。

◎これからどんな職員になってみたいか

日々の業務を通して学ぶことがたくさんあり、とてもやりがいを感じています。これからは、自分の担当業務を十分に理解したうえで、何事にも全力で取り組み、楽しんで仕事のできる職員を目指します。

JA全農いわたの
純情人
じゅん じょう びと

レッツトライ クッキング!! Let's try cooking orders 33



デザート感覚のおしゃれな軽食! お餅で フレンチトースト

◇材料(1皿分)

- 切り餅…2個
- 牛乳…90g
- 砂糖…10g
- 卵…50g
- バター…5g
- 粉糖(飾り用)…少々
- 好みのフルーツ、ハーブ、はちみつ…適宜

◇作り方

- ①切り餅と牛乳を耐熱容器に入れ、ラップをふんわりと掛け、電子レンジに入れ、600Wで約3分30秒温める。
- ②電子レンジから取り出した①をしっかり混ぜ、混ぜたら砂糖、卵を加えて、さらによく混ぜる。
- ③中火にかけたフライパンにバターを入れ、バターが溶けたら②を入れて、弱火で約4分焼く。
- ④③を皿に移し、上から粉糖をサッとふりかけ、好みのフルーツ、ハーブを添える。好みではちみつをかけても美味しい。チーズなどでもOK!

料理監修

TOM
CREPERIE & DELI

オーナー/佐々木朋美

紫波郡矢巾町又兵衛新田第7地割199
くるみアパートメント1F
TEL 019-681-7337
Mail tom1123tom@icloud.com
https://tom-creperie-deli.com



本会職員によるスマートフォン操作研修(農事組合法人広田半島)

TRY! 営農支援 レポート

生産者と共に奮闘する
営農支援部の活動をレポート



手取り最大化プロジェクト 実践メニューの取り組みについて

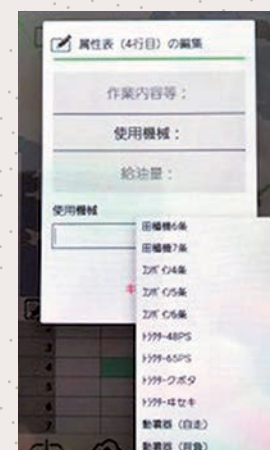


営農支援部
営農支援課
菊池 規

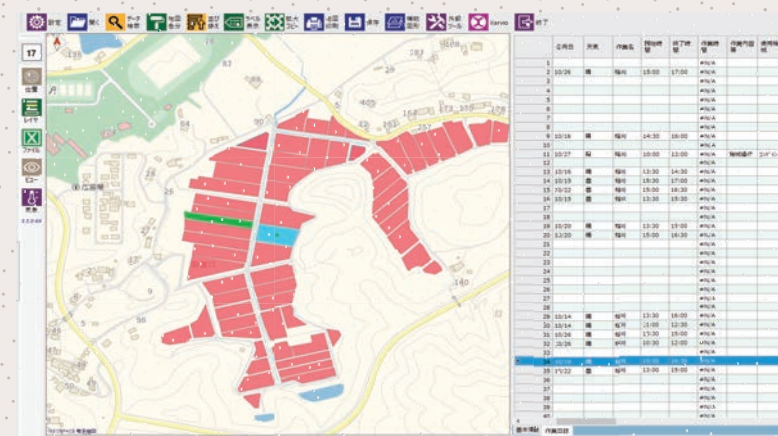
JAのおおふなと手取り最大化プロジェクトにおいて取り組んでいる二つの実践メニューをご紹介します。

①営農管理システム「Z-GIS」を活用したスマートフォンによる作業日誌の作成

農事組合法人広田半島では、5地区の水稲圃場をそれぞれ5人の担当者が管理しており、作業日誌は各圃場担当者が紙ベースで作成し、事務担当者がその全員の作業日誌をパソコンに入力しています。広田半島ではスマート農業の取り組みも検討していたことから、事務の簡素化を図るため、Z-GISを使って圃場担当者が現場からスマートフォンで作業内容や作業時間



「使用機械」のプルダウン入力画面



圃場地図と作業日誌の連動画面

を入力し、作業日誌の作成に活用できないかとの相談がありました。

活用に向けて広田半島と協議を行い、入力する項目の整理やスマートフォンで入力しやすいよう、できるだけプルダウン選択機能を使用することとしました。活用は始まったばかりですが、まだ課題もありますので、本格稼働に向け引き続きJAとバックアップしてまいります。



左:散布日7/27 右:散布23日後8/17

②ダイロンゾル・ザクサ液剤(DZ作戦)による水田畦畔除草の省力化

夏場における草刈り軽減及び電気柵下の雑草発生抑制を図るため、DZ作戦の普及に取り組んでおります。ダイロンゾルは土壌に処理層を作り、これから発生する雑草を長期間抑え、ザクサ液剤は既に生えている雑草を枯らします。この二つを混合散布することにより、畦畔雑草の発生を約60日間抑制することが可能となります。JAのおおふなと管内では鳥獣害対策として、電気柵が普及していることから、電気柵下の雑草による漏電や草刈り機による断線防止としても推進しております。JAのおおふなとでは、普及促進を図るため4カ所のモデル農家で散布を実施しました。モデル農家からは「散布にムラがあると草が残ってしまったため、まんべんなく散布することがポイント」とアドバイスを頂いておりますので、管内および他地域の経営体への水平展開においても注意点として伝え、JAと一緒に活用提案してまいります。

サンキュー！ 390名様に抽選で当たる！

牛乳でスマイルプロジェクト

いつも「いわての牛乳」を支えてくれているみんなが、もっと笑顔になれるように。

朝の冷たい1杯でシャキッ、寝る前の温かい1杯でホッ。

そんな変わらない日常をこれからも、酪農乳業関係者がチームで届けていきます。

「いわての牛乳」を飲んでみんな笑顔に！

※JA全農いわては、農林水産省と一般社団法人「ミルクが立ちあげた「牛乳でスマイルプロジェクト」に参加しています。

お好みの賞品を選んで応募

20ℓコース 20ℓ分を一口としてご応募ください

A賞 4名様 いつでも、どこでも、誰とでも Nintendo Switchの口コ-Nintendo Switchは任天堂の商標です。 任天堂 Nintendo Switch	B賞 3名様 温泉旅館、新築の家、ホテルの部屋、山荘、山荘、山荘 選べる！ペア宿泊券 ※ご希望の旅館は当選後にお選びいただけます	C賞 3名様 変形しないパワフルな吸力 ダイソン コードレスクリーナー (Dyson V8 Slim Fluffy Extra)
--	--	---

10ℓコース 10ℓ分を一口としてご応募ください

D賞 150名様 どの乳業メーカーの商品が置かはお楽しみに！ いわての牛乳乳製品セット	E賞 40名様 いわて牛を堪能しよう！ いわて牛焼肉 もも・ばらミックス	F賞 10名様 石崎電機製作所 ジュースミキサー ミル付き (SJM-M1000P)
G賞 10名様 YAMAZEN ホットサンドメーカー (Y9B5420) ホットサンドメーカー	H賞 10名様 加速やカーブを楽しみながら 体幹トレーニング！ リップスティック デラックスミニ (サンパーブラック)	I賞 10名様 フジアンドチェリー エアーマスク (EM-R0208LA-GLD)

5ℓコース 5ℓ分を一口としてご応募ください

J賞 50名様

いわての牛乳 オリジナルクオカード 1,000円分

Wチャンス 合計100名様

各コースにはずれた方の中から抽選でいずれかが当たる！

いわての牛乳 オリジナルエコバッグ W390mm×H430mm×ハンドル170mm マチ60mm	いわての牛乳 オリジナルグッズ W80mm×H96mm 重さ約390g 容量約350cc	いわての牛乳 オリジナルマグカップ W80mm×H96mm 重さ約390g 容量約350cc
---	---	---

※不測の事態が生じ賞品の入手が困難となった場合は現行相当品に変更させていただきます。予めご了承ください。※写真はイメージです。色はお選び頂けません。

応募締め切り 2023年2月28日(火)【当日消印有効】

応募方法

キャンペーン対象メーカーの牛乳パックに記載の「公正マーク表示部分」を切り取り、20ℓコースは20リットル分、10ℓコースは10リットル分、5ℓコースは5リットル分を1口として、専用応募封筒または一般封筒に必要事項(郵便番号・住所・氏名・年齢・性別・電話番号・ご希望のコース・賞品)を明記の上、ご応募ください。お一人様何口でもご応募いただけます。

公正マーク表示部分の種類別名称に「牛乳」以外の名称が記載されているものはキャンペーン対象外です。(※加工乳・乳飲料・はっ酵乳・乳酸菌飲料・チーズ等は対象外)

対象メーカー ・(有)安比高原牧場 ・岩泉ホールディングス(株) ・(株)岩手牛乳 ・大石乳業(株) ・(株)おおのミルク工房 ・奥中山高原農協乳業(株) ・(一社)葛巻町畜産開発公社 ・小岩井乳業(株) ・タカナシ乳業(株) ・(一社)田野畑村産業開発公社 ・不二家乳業(株) ・(株)湯田牛乳公社 ※50音順

公正マーク表示部分はココだよ

JA全農いわて

キャンペーン特設ページは、こちらから

いわての牛乳 Instagramは、こちらから

いわての牛乳ありがとうキャンペーン事務局【(株)岩手広告社内】

☎0120-623-706 受付期間 2023年3月末日まで 受付時間 10:00～17:00(平日のみ)

※個人情報の取扱い・お預かりした個人情報につきましては、賞品の発送のみに使用いたします。お客様の承諾なく第三者に開示・提供いたしません。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。2023年は卯年です。読者の皆様に「卯(う)」らしいことがたくさんある1年になりますように。今年もよろしくお願いいたします！ (大山)

KLARA

タイトルのKlara(クララ)は、宮沢賢治の手帳にしている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかという願いが込められています。

私たち全農グループは、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ
〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
<https://www.junjo.jp>